

情報ネット後志

NO. 14 2015年 6月
発行：後志農業改良普及センター

< 平成 26 年度に成果の上がった活動 >

- 塩トマトにかける夏・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- てんさいの安定生産で生産額 100 万円 /ha をめざせ・・・2
- 高品質ぶどう（頑徹ぶどう）の安定生産に向けて・・・・・・3
- 笑顔になれる肉牛経営を目指して・・・・・・・・・・・・・・・・4



「 塩トマトにかける夏 」 ～ 倶知安町青年団体協議会 ～ 担当：本所 調整係

倶知安町青年団体協議会は倶知安町内の農業青年 17 名で組織するグループです。倶知安町の農業を PR する活動として各種イベントへの参加や福祉施設への慰問（平成 26 年度北海道優良農業グループ表彰）などがあります。また、会員個々の農業経営上の課題を持ち寄り、プロジェクト活動としてその解決策を検討する活動も行っています。平成 26 年度は、塩を用い、浸透圧を利用してトマトを甘くする高糖度トマト栽培に取り組む会員がいることから、その栽培や販売方法などを研究することをプロジェクトとしました。

プロジェクトを共有しよう！

これまでのプロジェクト活動は、会員の間で十分には共有されず、試験ほ場を設置した青年の個人負担が大きかったため、普及センターは、全員が意見を交わせるよう誘導することで、各自に責任感を持たせました。栽培が始まってからは、会員が自ら、生育状況の写真をネット上の仮想ドライブに保存して、皆がトマトの生育の様子を確認・共有できるよう工夫しました。



トマト定植作業

プロジェクト活動から新たな展開へ

青年主体で活動したことで、全員が栽培方法を習得でき、新たな探求心も芽生えました。トマトの収穫が始まったころには、他地区の生産者と一緒に出荷先の市場に出向き、規格や価格などについて取り決めました。また、札幌市内の商業施設での対面販売にも挑戦しました。全てにおいて、初めての体験ばかりでしたが、高糖度トマト栽培の可能性を実感するとともに、栽培にとどまらず流通・販売に関する情報交換が活発に行われるようになりました。

そして、一連の取組みをプロジェクト成果として発表したところ、後志アグリフォーラムでは最優秀、全道青年農業者会議では優秀賞を受賞しました。



イベント販売



全道青年農業者会議

「 てんさいの安定生産で、生産額 100 万円/ha を目指せ！ 」

～ 留寿都村 ～

担当：本所 地域第三係

不安定な気象条件で、てんさいの生産性が低下傾向！

留寿都村は畑作物と露地野菜の複合経営が営まれ、羊蹄地域を代表する農村地帯です。近年、不安定な気象環境等により、「てんさい」の生産性低下が課題となっています。このことから、留寿都村てんさい耕作者6戸と普及センターが協力し、改善策を検討しました。



協力して頂くてんさい耕作者の皆さんと改善策を検討しました。

目指せ！ 糖量 10t/ha・生産額 100 万円/ha 以上！！

てんさい耕作者の皆さんと具体的目標を立て、その目標を到達するための改善策を実践しました。



農家A

【 具体的目標 (農家の目標) 】

糖 量：10 t / ha 以上
生産額：100 万円 / ha 以上

【主な改善対策 (普及センターからの提案)】

- 育苗管理技術の再確認
- 融雪促進 (融雪状況等の情報提供)
- 施肥改善 (窒素・リン酸の減肥)
- 発生予察に基づく病害虫防除



普及指導員

活動の主な成果

【育苗管理技術の再確認】



各戸の育苗ハウスを巡回し、苗の生育ステージに応じた温度・水管理が再確認しました。これにより適正な育苗管理ができ、良質苗が生産されました。

【融雪促進と早期移植】



普及センターが提供した各種情報等を参考に、融雪剤散布が適期に行われ、平年より5日早く融雪を迎えました。



融雪促進により、早期移植が実現できました！
平年より8日早い移植となりました。

【施肥改善 (施肥設計検討)】



昨年実施した施肥試験結果を基に、基肥窒素とリン酸の減肥を検討しました。その結果、肥料費の削減となり、所得アップにつながりました。

【病害虫防除】



戸々のほ場に定点を設置し、自らが病害虫発生予察に基づく防除を実施しました。その結果、病害虫の被害は認められず、農薬費も大幅に削減できました。

【成果のまとめ】



農家B

ポイントを絞った改善策を実践したことで、糖量、生産額は目標を大きく上回りました。又、肥料費や農薬費の削減にもつながりました。これらの改善策が地域全体に波及することを期待しています。

< 生産実績 (6戸平均) >

区分	根重 t/ha	根中糖分 %	糖量 t/ha	生産額 千円/ha	生産コスト	
					肥料費	農薬費
6戸平均	70	18.1	12.7	1,433	88	93

生産コスト(肥料費、農薬費)：前年度対比

「高品質ぶどう（頑徹ぶどう）の安定生産に向けて」～ 余市町 ～ 担当：北支所 地域第一係

余市町の露地ぶどうは出荷が最盛期になると、販売単価の低下が問題となっていました。そこで、普及センターは JA よいちと連携して、重点地区で着果管理による出荷時期の前倒しと、糖度向上による高品質ぶどう(頑徹ぶどう)の生産・販売の取り組みを支援し、販売単価の向上を目指しました。

頑徹ぶどうの品質確保と消費者へのPR活動

1つるに1～2房着房させ全体で1.5房に制限し、1房 290～400gのL規格を目標とした頑徹ぶどう着果管理技術を確立しました。

表1 頑徹ぶどう品質保証のための活動内容（平成26年度）

時期	5/下旬	7月～8月	収穫前	収穫直前	頑徹ぶどう出荷
取組農家		着果管理、園地確認	食味(舌あわせ)	品質保証(糖度・食味確認)	
JA		巡回、出荷協議	市場・農家へ連絡	外觀品質検査(規格・等級)	
普及センター	萌芽調査	房作り講習会、巡回	収穫予測(熟度調査)	内部品質検査(糖度・食味)	

取り組み農家と関係機関による着果管理状況の確認や食味の「舌あわせ」など、品質を保証する仕組み（表1）をつくってき

ました。

店頭用ポスターの作成やメディアへのPR支援などで消費者に頑徹ぶどうの認知度を向上

させる取り組みを行いました。



着果管理研修会



食味合わせの状況

取り組んできた結果

取り組み農家が品質の確保に取り組み、消費者の認知度が上がってきたことで、一般ぶどうより頑徹ぶどうの平均単価が高くなりました。

一般ぶどうとの差別化を狙った新しい取り組みとして、キャンベルL規格の1房「袋売り」をすることによって、単価アップにつながる商品づくりができました。

取り組んできた農家は「手間はかかるが、それだけの見返りはある」とのコメントや取り組んでいない農家に誘いの声を掛けたりなど、良さを実感してきています。

新規取り組み者も増加（平成27年度3戸増）し、地域への波及につながってきています。

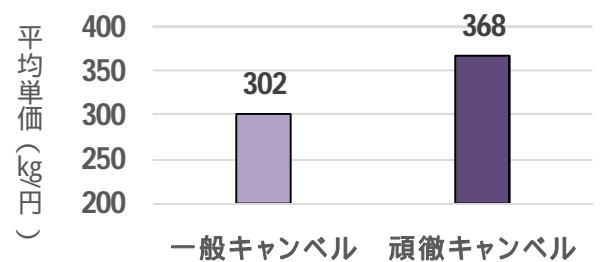


図1 一般と頑徹ぶどうの平均単価



袋売りの出荷状況

市場で高く売れる素牛を作ろう

ようてい和牛生産改良組合黒松内支部では素牛販売価格が市場平均より若干安く、発育改善が課題でした。普及センターでは、黒松内町・JAよ

うていと連携し、貸付牛等の発育調査を実施しました。粗飼料分析の結果を基に、給与粗飼料に応じたメニューを提案しました。その結果、素牛出荷時の日齢体重は全道平均並となり、目標を達成した農家は6割となり

ました。販売価格も全道並となりました。

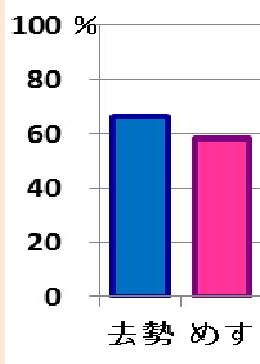


図1 目標達成農家率

出荷时日齢体重の目標

めす 0.96kg/日以上

去勢 1.08kg/日以上

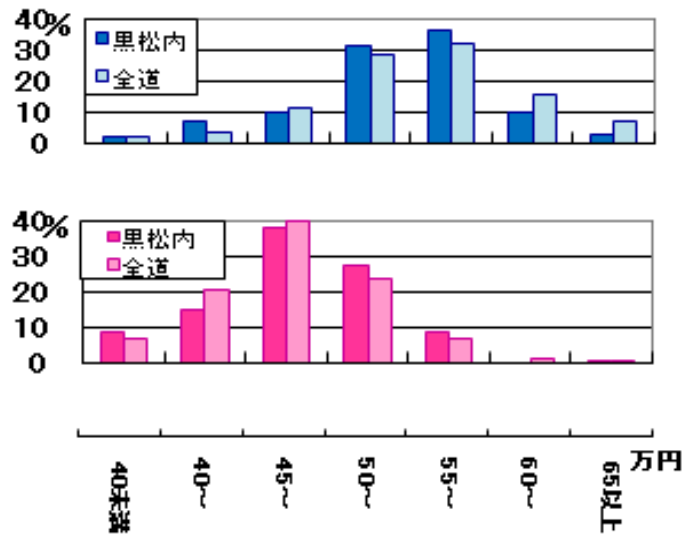


図2 価格帯別の分布率(上:去勢 下:めす)

枝肉の格付等級を高めよう

肥育牛においては枝肉成績のバラツキが課題でした。濃厚飼料の銘柄変更や、飼料の増給・切り替えを徐々に行うことで喰い止まりを防ぐことができ、初のA5となりました。現在は、肥育牛の栄養充足度の確認を行



枝肉の確認風景



喜びの生産者

い、二度目のA5を狙っています。

新規参入希望者への期待

総合農業推進協議会のメンバーにより、新規就農者支援について検討を進めました。関係者が一体となった支援体制を作り、支援制度を手厚くするため、町条例の改正に繋がりました。



研修生巡回

現在、和牛繁殖経営での新規参入希望者が農業研修を受けています。

定期的な会議と技術的な指導を実施しており、地域への定着が期待されています。

後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭 57-1
TEL 0136-22-1072
FAX 0136-22-4744
shiribeshi-nokai.1@pref.hokkaido.lg.jp

南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内 309
TEL 0136-72-3161
FAX 0136-72-3456
shiribeshi-nokai.minami1@pref.hokkaido.lg.jp

北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町 11 番地 1
TEL 0135-22-5135
FAX 0135-22-5987
shiribeshi-nokai.kita1@pref.hokkaido.lg.jp